



女子中高生の理系進路選択支援事業

輝け未来！オーシャンサイエンスで活躍する女性研究者たち

女子中高生に海洋研究の魅力を伝える活動 ～東京大学海洋研究所の試み～

◆支援事業の概要◆

目的: ①女子中高生の理系選択アップ
②女子中高生に海洋研究の魅力を伝える

東京大学海洋研究所



出張授業

- 講演
- テキスト
- ロールモデル



白鳳丸見学会

- 現場体験
- 実習
- 交流



ホームページ

- 本事業の紹介
- 白鳳丸見学会Web申込み
- 質問コーナー

アンケート結果

- ・進路選択の参考になった
- ・女性も活躍している
- ・様々な研究がある
- ・大変でもやりがいがある
- ・難しいと思っていたが、楽しそう

◆支援事業の目的◆

伝統的に男性主体であった海洋での作業にも女性が進出し始め、海洋科学の分野では、人数がまだ少ないものの女性研究者と女子学生の活躍の場と時間が広がっている。しかしながら、女子中高生にとっては海洋にかかわる理系の進路についての情報、すなわち実際のロールモデルや海洋でのフィールド活動の情報が著しく不足している。また、海洋科学は地球科学と生命科学を包括する広い理系の分野であり、進路の選択肢は理系の中でも幅広い分野であるが、その全体像を的確に女子中高生に伝える機会も彼女たちが知る機会もほとんどない。本事業は「海洋科学の女性研究者の研究生活」を紹介し、理系選択の一助となることを目的とする。

◆出張授業の実施◆

女子高等学校3校に向向き、教職員が自身の専門に関する講演とキャリアを話した。さらに大学院生が自身の研究内容、船を使った研究と船内生活、陸上での研究生活を紹介した。特に大学院生による自分自身の研究と進路選択の話は好評であった。授業後も勉強できるように、教職員は専門分野を総括した内容の、大学院生は自分の研究内容紹介のテキストを作成した。3校で280名が受講した。

◆学術研究船白鳳丸見学会の実施◆

平成19年11月24日、25日晴海港停泊中に実施した。参加者は、まず旅客ターミナルで海洋科学の最新成果の講演2-3題と船を使った観測と船内の説明を聞き、白鳳丸に移動した。船内は6階建てビルに相当し、2班に分かれて船の研究室や居住区を見学し、各所で説明を受けた。甲板では生物、化学、地学の実習を体験し、昼食時には食堂でスタッフを交えて歓談をした。参加生徒(中1-高校3)は45名、保護者・教員は28名であった。

◆ホームページ◆

URL:<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/shingaku/index.html>

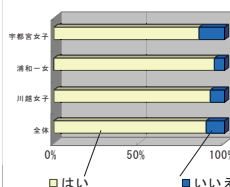
東京大学海洋研究所のホームページに「女子中高生の理系進路選択支援事業」のページを開設し、本事業の紹介、出張授業、白鳳丸見学会、質問コーナーのページを公開している。このHPは、白鳳丸見学会のWeb申し込みにも利用した。

◆アンケートの実施◆

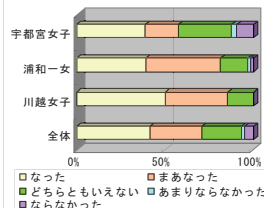
出張授業と白鳳丸見学会の両方で、参加者のほとんどが海洋科学のイメージが変わったと答えている。女性も多く楽しそう、実際に接して海洋科学を身近に感じた、興味を持った、授業や見学会にまた出たいなど、本事業で海洋科学の理解が進み、理系選択への支援になったことがうかがえた。

出張授業での回答

[問1]この授業を受ける前と後でオーシャンサイエンスに対するイメージが変わりましたか？

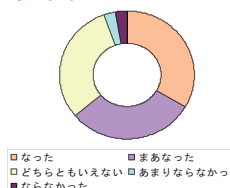


[問6] 今日の授業は進路選択の参考になりましたか？

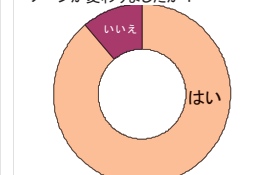


白鳳丸見学会での回答

[問6] 研究船乗船体験は、進路選択の参考になりましたか？



[問4] 研究船乗船体験の前と後で、オーシャンサイエンスに対するイメージが変わりましたか？



◆今後の課題◆

事業終了後も継続が必要である。進路決定前の中学生あるいは小学校高学年を対象とした事業を考える。